

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

日本語教授法B実践報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学留学生別科 公開日: 2025-04-11 キーワード (Ja): 関西外国語大学, 留学生別科, 日本語教授法 キーワード (En): 作成者: 渡嘉敷, 恭子 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://kansaigaidai.repo.nii.ac.jp/records/2000343

日本語教授法 B 実践報告

渡嘉敷 恭子

要旨

本稿は、関西外国語大学の日本語教員養成課程のコースの「日本語教授法 B」の実践報告である。20 年以上本コースを担当して、内容の変更を繰り返しながら、カリキュラムを実践してきた。2024 年度の春学期に開講された本コース（履修者数 6 名）の授業内容、主に発表について報告し、今後の課題について考える。

【キーワード】 関西外国語大学、留学生別科、日本語教授法

1. はじめに

本学ではこれまで「日本語教員養成課程」で、所定のコースを履修すれば「修了証」が授与されてきた。しかし、2024 年 4 月から文部科学省により、日本語教師の国家資格化「登録日本語教員」が創設され、認定を受けた日本語教育機関で日本語教師をするには国家資格「登録日本語教員」の資格が必要になった。「登録日本語教員」になるためには「試験ルート」と「養成機関ルート」がある。「試験ルート」は日本語教員試験（基礎試験・応用試験）に合格後、教育実習を修了するルートで、「養成機関ルート」は 2 種類あり、ひとつは登録日本語教員養成機関で課程を修了した後に、登録実践研修機関で実践研修を受けるルート（基礎試験は免除）、もうひとつは登録日本語教員養成機関と登録実践研修機関の両方の登録を受けた機関で、課程と実践研修を一体的に修了するルート（基礎試験は免除）である⁽¹⁾。

本学の日本語教員養成課程の「言語と教育に関する科目」に分類される「日本語教授法 A」と「日本語教授法 B」は『新・はじめての日本語教育 2』などの日本語教授法の書籍を参考に、内容を分担し、カリキュラムを編成してきた⁽²⁾。「日本語教授法 A」と「日本語教授法 B」それぞれ複数名の教師が担当しており、カバーする内容は

それぞれに任されているので、多少の差異はある。本稿では著者が担当した「日本語教授法 B」の内容と今後の課題について報告する。

2. コース概要

2.1 カリキュラム

本コースは本学の日本語教員養成課程の必修科目で、一学期に 15 週間、週に 90 分の授業が 2 回行われる。「外国語学部」、「英語キャリア学部」、「英語国際学部」の学生が履修可能で、日本語教員養成課程の科目の中では最も実践的な教え方を学ぶ内容となっている⁽³⁾。履修後は所属する学部によって異なるが、「日本語教育実習演習」、「日本語教育実習」のどちらかを履修することになっている⁽⁴⁾。

2.2 シラバスとスケジュール

本コースでは最初の授業でシラバス（添付資料 1）とスケジュールを配布した。以下が本コースの評価基準である。

学期末課題（教案作成） 20%

模擬授業 25%

小テスト／課題 20%

導入の発表 10%

文法説明の発表 15%

授業中の態度・発言 10%

模擬授業を含め、発表が評価の 50%を占める。学期末の課題は限られた時間で作成し、学習管理システムの Blackboard Learn 上で提出する課題を課した。それぞれの内容については次節で解説する。

3. コース内容

3.1 教材

本コースでは日本語教授法の書籍をテキストとして使用せず、本学の留学生別科の初級日本語コース（レベル 1 とレベル 2）で使っている『初級日本語げんき I』を採用してきた。本コースは日本語教授法の理論ではなく、主に実践的な教え方と教材作成について学ぶコースであるため、実際に日本語学習者が学習する内容を学習者

側、教師側の両側面から知ることが重要であること、日本語教員養成課程の最後の科目「日本語教育実習」で留学生別科の学生に教育実習を行うため、事前にその教材の内容について熟知しておくが必要になること、加えて、本コースで模擬授業を含めた 3 回の発表を行う際、実際に日本語学習者が使用しているテキストを使うことによって、指導案や教室活動を作成時、語彙や表現の既習・未習を意識させることができること、これらの理由から、『初級日本語げんき I』を本コースのテキストに選んだ。日本語教授法関係の書籍を副教材とすることも考えられたが、学生の経済的負担を鑑みて、より使用頻度の高い『初級日本語げんき I』を主教材として採用した。

3.2 小テスト

文法シラバスの『初級日本語げんき I』は第 1 課から第 12 課まであり、各課で 3 つから 8 つの文法を学習する。本コースの学生には課ごとの文法説明と表現ノートの内容について問う小テストを毎週課している。学生は英語で書かれている文法説明を読んで理解しておくことが求められている。問題は空所補充式や質疑応答式などで構成されており、4 点満点で、次のクラスで解説を行っている。

3.3 発表

3.3.1 導入の発表

最初の発表として、文法導入の発表を課した。本コースでは教師と学習者の会話の中でターゲットとなる表現を紹介し、学習者のその意味を理解させる帰納的な方法を採用している。発表に先んじて帰納法による文法導入の方法について学んだ後、同じ日に発表を行う二名は同じ文法項目を担当させた。導入までの流れの中で既習の表現も使用し、復習も兼ねた活動になるように作成する。導入をどのように展開するのか教師 (T) と学習者 (S) の発話をワープロソフトで作成して、発表前日の正午 (12 時) までに Blackboard の「課題」「導入の発表」から提出させる。発表では発表者以外の学生が学習者役になる (添付資料 2)。評価基準は以下の通りである。

- 締切 (/5)
- 教案の書き方 (/2)
- 既習項目の練習 (/5)
- 展開とわかりやすさ (/10)

- 未習項目（単語・表現）の使用（/3）
- 反省（/2）
- 長さ（/3）
- 合計点（/30）

発表のクラスでは二名の発表が終了後、発表者以外をふたつのグループに分け、それぞれにひとつの発表を担当させ、グループディスカッションを行わせた。全員にスクリプトのコピーとディスカッション用紙を配布し以下について話し合わせた。ディスカッション用紙の質問は以下の通りである。

1. 教案の書き方（使用するもの、フォントの大きさなど）
2. 未習単語、未習表現の有無（あれば全て書き出す）
3. 学習者が場面、状況を理解できるように工夫されていたか
4. 写真やイラストは見やすかったか
5. 既習項目の練習（どんな既習文型の練習があったか、それが導入までの自然な流れの中に組み込まれていたか、学習者が練習できていたか）
6. 文法導入までの話の流れ（不自然な発話、質問、展開はなかったか）
7. 導入文の未習の部分が理解できなくても（例えば「名前をななななな」と聞こえた場合でも）学習者がその部分の意味を推測できたと思うか（その理由も）
8. その他

その間、発表者には自らの発表を顧みて、反省点・改善点を1分ぐらいにまとめさせた。

まず、発表者から留意点、反省を述べてもらい、教師がそれについて質問をした。それから、担当グループからコメントをもらい、教師がコメントを追加したり、後で発表する人が有利にならないように配慮しながら助言を行い、その文法項目に関してのまとめを行った。最後に発表者のみ残ってもらい、個人的に指導を行った。

3.3.2 導入と文法説明の発表

2番目の発表として、導入と文法説明を課した。まず、文法説明教材をPowerPointで作成する方法を学んだ後、各自自分の担当の文法説明教材を作成する。導入の発表と同様に同じ授業で行う二名は同じ文法項目を担当させた。発表では、まず導入を行い、自分で作成したスライドを見せながら、英語で説明させた。導入部分と説明部分、

全体で10分ぐらいの長さになるように調整するよう指示した。導入のスクリプト(ワードファイル)と授業で使用する PowerPoint 教材は当日の午前9時までに Blackboard に提出させた(添付資料3)。評価基準は以下の通りである。

- 締切 (/5)
- 導入での既習項目の練習 (/5)
- 導入の展開とわかりやすさ (/5)
- 説明のわかりやすさ (/5)
- 説明でのパワーポイント教材 (/3)
- 例文の質 (/3)
- 未習項目(単語・表現)の使用 (/3)
- 学生の参加 (/3)
- 長さ (/3)
- 反省 (/2)
- 合計点 (/37)

発表のクラスでは導入の発表のときと同様に、二名の発表が終了後、発表者以外をふたつのグループに分け、ひとつの発表を担当させ、グループディスカッションを行わせた。全員にスクリプトのコピーとディスカッション用紙を配布し以下について話し合わせた。

導入

1. 文法導入までの話の流れ(不自然な発話、質問、展開はなかったか、あればどこ?)
2. 既習項目の練習(どんな既習文型の練習があったか、それが導入までの自然な流れの中に組み込まれていたか、学習者が練習できていたか)
3. 未習単語、未習表現の有無(あれば全て書き出す)
4. 導入文の未習の部分が理解できなくても(例えば「名前をななななな」と聞こえた場合でも)学習者がその部分の意味を推測できたと思うか(その理由も)
5. その他、気になった点

文法説明

6. 説明のわかりやすさ(説明とパワーポイントの連携)
7. パワーポイントの内容はシンプルで見やすかったか
8. 教師がひとりで話すのではなく、学生にも参加させていたか

9. 不自然な例文はなかったか（未習の表現・単語を使っていなかったか）
10. 英語と日本語の切り替えがうまくできていたか
11. その他、気になった点

その間、発表者には自らの発表を顧みて、反省点・改善点を1分ぐらいにまとめさせた。

導入の発表のときと同じ手順で、まず、発表者から留意点、反省を述べてもらい、教師がそれについて質問をした。それから、担当グループからコメントをもらい、教師がコメントを追加したり、後で発表する人が有利にならないように配慮しながら助言を行い、その文法項目に関してのまとめを行った。最後に発表者のみ残ってもらい、個人的に指導を行った。

3.3.3 模擬授業

最後にこのコースのまとめとして位置づけられている模擬授業を課した。50分コマの授業活動のウォームアップと前回の復習、導入、文法説明、基礎練習、コンテキスト練習、応用練習の中から、ウォームアップと前回の復習とコンテキスト練習を除いた活動を30分で行わせた。基礎練習と応用練習の種類についての説明、それぞれの練習の例とPowerPointで作成した練習の例の紹介、教案の書き方については先般の授業で行った。また、教案は所定のフォームを使用させた。

模擬授業はそれぞれの学生に別々の項目を担当させた。他の発表と同様に、発表者以外が学生役になり、授業を行う。導入のスクリプト、導入と練習で使用するPowerPointのスライド、練習で使用するプリントを前の発表と同様にBlackboardに提出させた（添付資料4）。提出期限は発表当日の午前9時とした。学生に配布するプリントは自分で人数分用意させた。以下が評価基準である。

- 教案（プリント）とパワーポイント教材の提出期限（/3）
- 教案の書き方（/3）
- 導入の質（/5）
- 説明の質（/5）
- 基礎練習の質（/5）
- 応用練習の質（/5）
- パワポなど教具の使用と質（/3）

- 英語と日本語の切り替え (/3)
- 未習の単語・表現の使用 (/3)
- 時間配分 (/3)
- 振り返り (/2)
- 合計点 (/40)

発表当日は他の発表と同様に、発表が終了後、発表者以外をふたつのグループに分け、グループディスカッションを行わせた。全員にスクリプトのコピーとディスカッション用紙を配布し以下について話し合わせた。

導入

1. 導入の文の発話までの流れは自然だったか（唐突な展開や質問がなかったか）
2. 導入で表現「～と言っていました」の意味が学習者に理解されたか
3. 導入部分で気になったこと（または質問）

文法説明

4. 段階的に説明されていて、学習者にとってわかりやすかったか
5. 状況や場面が想像しやすい自然な例文が採用されていたか
6. 文法説明部分で気になったこと（または質問）

基礎練習

7. 基礎練習の質と指示のわかりやすさ
8. 基礎練習部分で気になったこと（または質問）

応用練習

9. 応用練習の質と指示のわかりやすさ
10. 応用練習部分で気になったこと（または質問）

全体を通して

11. 未習項目の有無
12. 漢字の使用
13. 日本語と英語の切り替え
14. パワーポイント(アニメーション) が効果的に使われていたか
15. 進め方（学生の反応を見ながらゆっくり落ち着いて進められていたか）
16. その他

その間、発表者には自らの発表を顧みて、教案作成時に留意した点、実際に授業を行

ってみてわかったこと（反省点・改善点）、次回の授業で変えたい点をまとめさせた。

他の発表と同じ手順で、発表者と担当グループからコメントをもらい、教師が追加したり、後で発表する人が有利にならないように配慮しながら助言を行い、その文法項目に関してのまとめを行った。最後に発表者のみ残ってもらい、個人的に指導を行った。

3.4 その他の内容

ここで本コースの発表以外の授業内容をいくつか抜粋して説明する。

3.4.1 パワーポイントの使い方と文法説明教材の作成 (Zoom)

本学の日本語のクラスのほとんどは PowerPoint に代表されるプレゼンテーションソフトを用いて教えられている。日本語教員養成課程の日本語教育実習でもプレゼンテーションソフトを使用することを想定して、本コースも同様に PowerPoint で教材を提示しながら教える方法を採用している。特に文法説明は PowerPoint を効果的に使用して行えるように、スライドの作成について学び、練習させた。

テキスト『初級日本語げんき』の文法説明は読んで理解することを想定して詳しく書かれているが、スライドで提示する文法説明は情報の要点を最小限にまとめ、視覚的にわかりやすく作成するように指導した。学生が受動的になりがちな文法説明が能動的な活動になるようなスライド作成を目指した。オンライン授業にしたのは、コンピューター教室が使えないという理由であり、学生には自分のパソコンまたは学内のパソコンで参加するように指示した。また、Zoom のブレイクアウトルームを利用してグループで教材を作成し、クラスの後半で発表してもらい、意見交換を行った。

3.4.2 文法紹介ビデオ教材の作成 (2回)

コロナ禍でオンライン授業を行うことが通常になり、オンデマンド教材開発の必要性が再認識された。現在は YouTube などオンライン教材が無料で使用できるようになっているが、自分の学生のニーズに合致しているものを探すのは難しい。今後も学生の自主学習に使用可能なオンデマンド教材の作成ができるように、授業で体験させてみた。

この授業は2回に分けて行った。1回目の授業ではビデオを作成し、2回目の授業でそのビデオをPowerPointのスライドに取り込み、その後文法説明のスライドを加え、オンデマンド教材を作成させた。

1回目の授業では6名を2つのグループに分け、第12課の「動詞＋すぎる」「形容詞＋すぎる」のどちらかを紹介する動画を作成させた。まず、ビデオのサンプルとして「初級日本語げんき第3版公式サイト」の「げんき文型ビデオ集」のビデオをいくつか見せた。その後の手順は以下の通りである。

1. その文型が発話される一分ぐらいの長さのスキットのスクリプトを考える。原稿を考える際、未習の語彙や表現が入らないように注意する。
2. 一度教師が確認する。
3. 撮影場所に移動してスマートフォンでビデオ撮りをする。その際、カメラが遠いと音声聞き取りにくくなるので、できるだけ近くで撮影する。
4. 教室に戻り、教師がビデオを確認する。
5. Blackboard上に提出。

2回目の授業では各グループに作成したビデオをUSBメモリーに入れて配布した。作成する教材は5、6枚のスライドで構成されている。「～てもいいですか」を例に挙げて説明した。

① ビデオを取り込んだスライド



図1 ビデオを取り込んだスライド

② ビデオ内で発話された「～すぎる」を含んだ文とその英訳

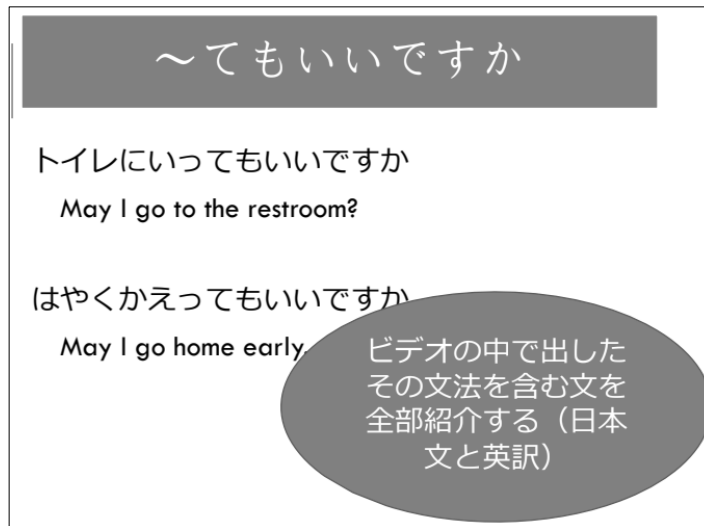


図2 ビデオ内で発話された「～すぎる」を含んだ文とその英訳

③ ビデオで紹介した文とその対訳、この文法の意味（機能）、作り方、その他注意点

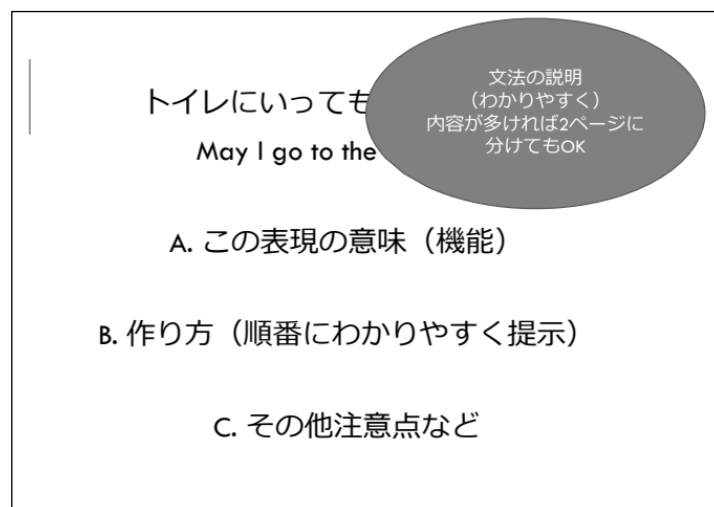


図3 ビデオで紹介した文とその対訳、この文法の意味（機能）、作り方、注意点

④ 他の例文

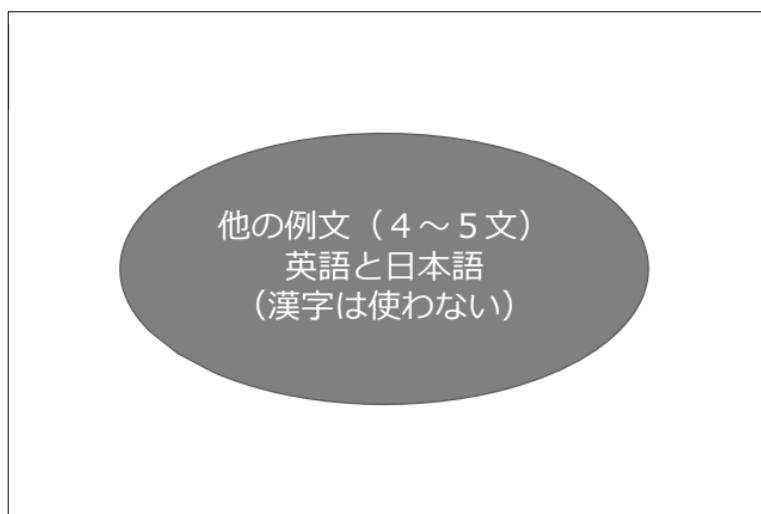


図４ 他の例文

⑤ ビデオのスク립トと対訳

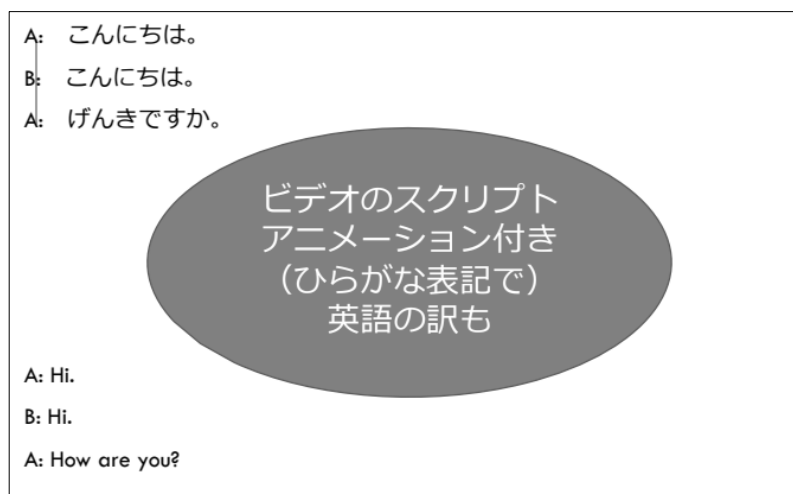


図５ ビデオのスク립トと対訳

グループのひとりにパソコンを持ってくるように指示していたので、その学生のパソコンを使って教材を作成させた。完成した教材をクラスで提示する予定だったが、時間がなくなり、後日行うことになった。どのグループの教材も多少の改善点はあるものの、初めて取り組みとしてはよくできていた。

3.4.3 リスニング問題の作成（課題）

この課題を課す前に、評価と試験についての授業を行った。日本語教育に限定せず、どのような試験やテストがあり、それらがどのような目的で行われているかを考えさせ、評価の種類や方法について解説した後、試験問題の種類を紹介した。最後に「信頼性」と「妥当性」について具体的な例を示しながら、授業を進めた。後日、その続きとして、初級日本語クラスのレッスンテスト（「初級日本語げんきⅠ」の第10課と第11課）の構成、各問題の要素と種類について解説し、その中でその問題が主観的か客観的か、信頼性・妥当性はどうかなど考えさせた。特に課題と関連している聴解問題については詳しく解説した。課題は「初級日本語げんきⅠ」の第6課と第7課の聴解問題を作るもので、聴解問題の例を参考にして30秒から1分ぐらいの長さの会話文、指示文、質問を考える。会話文の中には第6課と第7課の5種類以上の文法項目を含むことを条件とした。完成したら、Blackboard上に提出させ、後日、お互いの問題を受けさせ、評価しあった。会話文に未習の単語や表現が入っていたり、質問が簡単すぎるという点が見られた。

3.4.4 オンデマンド教材の作成

コロナ禍が収束し、通常の対面授業が始まったが、ビザの発行が遅れたため、来日が遅れる学生が多い時期があった。それらの学生のために、Zoomを使って対面授業を録画して、視聴してもらうことも可能だが、教師が常にパソコンの前にいるわけではないので、教師の声が聞き取りにくくなってしまうという欠点もあった。その問題を解決するために、オンデマンドビデオ教材を作成した。このようなオンデマンド教材が必要となる状況に備え、本コースの学生にも作成のしかたを指南した。数人の学生に自身のパソコンを持ってきてもらい、そのパソコンをシェアして行った。

教材はPowerPointを使用し、できるだけ、対面授業に近い教材を作成した。まず、アニメーションを付けたPowerPoint教材を作成し、それに教師の音声を録音する。共通の教材を使用した方が、指示がしやすくなると考え、今回はPowerPointのスライドはあらかじめ教師が作ったものを準備した。「記録」タブを開き、「録画」を選択し、対面授業と同様に録音していく。その際、録音のタイミングはアニメーションと連動する必要がある。あらかじめ録音する文章をスライド下のスピーカーズノートに記入しておくともスムーズに録音ができる。それらの注意事項を教師の画面を見せ、

導入、文法説明、基礎練習の順番で説明しながら、実際に学生にも作成させた。導入、文法説明、基礎練習の順番で以下を繰り返した。

- ① 教師が作成したそれぞれの部分を見せる
- ② 録音のしかたを説明する
- ③ 学生に同じ音声付きスライドを作らせる

全部分の録音が終了したら、最後にビデオに変換し、完成させた。このビデオ教材の作成は日本語教育に限らず、他にも応用が利くので、実践的な経験ができたのではないだろうか。

4. 今後の課題

以前は主に日本語科の日本語教師が日本語教員養成課程の科目を担当しており、科目間で内容が重ならないように話し合い、調整を行っていた。日本語教授法 B は課程の最終科目としての位置づけで、より実践的な内容を扱ってきた。その後、日本語科の日本語教師以外が担当することが増え、担当者が独自に内容を選択してカリキュラムデザイン、コースデザインを行うようになってきた。しかし、日本語教師の国家資格化「登録日本語教員」が創設され、文化庁が公表した「必須の教育内容 50 項目に対応した日本語教員養成課程等」として確認された機関で日本語教員を養成するには、より厳格化した内容を教える必要がでてきた。本学の日本語教員養成課程の全てのコースで内容を再度吟味し、どの科目で何を扱うか振り分けを行った後、それぞれのコースでシラバスの改訂が必要となるだろう。

注

- (1) 本学も令和 6 年 11 月 29 日付けで外国語学部国際日本学科と英語国際学部アジア共創学科が登録日本語教員養成機関に登録済みである。
- (2) 日本語教員養成課程のなかには他に「日本語学概論」、「日本語学 A」、「日本語学 B」などの必修科目がある。
- (3) 今後は対象学部が外国語学部国際日本学科、英語国際学部アジア共創学科（2025 年 4 月開設、設置構想中）に変更になる予定。
- (4) 「日本語教育実習演習」は一学期のコースで学生同士が教師と学習者になって実習を行い、「日本語教育実習」は留学生別科で 3 週間の実習を行う。

参考教科書

坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2020）『初級日本語げんき I 第3版』ジャパントाइムズ出版

ウェブサイト

初級日本語げんき第3版公式サイト <https://genki3.japantimes.co.jp/>（2025年1月8日）

(ktokashi@kansaigaidai.ac.jp)

日本語教授法 B 2024 年春学期

担当教員：渡瀬敏子 ktkashi@kansaiandai.ac.jp
時間：月曜日 3 限 13:15-14:45 と 木曜日 3 限 13:15-14:45
教室：月曜日 3207 木曜日 3401
研究室：渡瀬敏子 国際交流センター 3 階 3327
オフィスアワー：水曜日 12:15-13:00（研究室に来る前に要連絡）

講義概要

本科目は日本語教育養成課程の実習前の最後の科目で、日本語学概論、日本語学 A、日本語学 B、日本語教授法 A で得た知識を基盤として、将来日本語教師、英語教師を目指す人に役立つ、日本語初級レベルでの実践的な教え方を学びます。前半では主に文型導入と説明のしかた、練習の作成について、後半では模擬授業を行いながら教える上での実践的な技術について学び、本学留学生別科での実習に備えます。3 回の発表（導入、文法説明、模擬授業）を行います。

到達目標

- 初級日本語学者を対象とした教室活動を行うことができるようになる。
- a) 教案作成、学習活動の選択、模擬授業を通して、学習者、学習項目に合った授業を組み立てることができる。
 - b) パワーポイントのスライドを使い、授業に適切な教材を作成することができる。
 - c) 実践の経験を重ねることで、客観的に自らの教え方を省みることができる。
 - d) 以上の項目について、教師、学習者、両方の視点から考えることができる。
 - e) 他者の授業を観察することで、論理的・批判的に思考し、自らの授業に反映することができる。

受講に際しての注意事項

- a) 本科目は原則日本語教育養成課程を履修している学生を対象としています。先修条件はありませんが、日本語教育養成課程の実習前の修まとめの授業として、受講者が日本語学概論、日本語学 A、日本語学 B、日本語教授法 A は履修済みであると判定して授業が進みます。また、英語圏出身の学習者に初級の日本語を教えるという設定で模擬授業を行いますので、日本語のテキスト「初級日本語げんき 1」の英語で書かれた文法説明を理解し、授業で説明できる英語力（TOEFL500 点程度）が必要とされます。このクラスは授業に出席するだけでは、及第点をもらうことはできません。その点を十分理解した上で履修してください。
- b) 授業は講義だけではなくディスカッション形式で進みますので、授業中の発言や参加など積極性を重視し、評価に入れます。
- c) 発表、模擬授業に関しては、準備不足や教養の網羅的を守らないなど、担当教師が基準に満たなかったと判断した場合は大幅に減点されます。また、自分の発表、模擬授業、試験の日に必要な場合、評価に含みません。（医療機関の診断書がある場合を除きますが、その場合も必ず事前にメールで連絡してください。）

日本語教授法 B 2024 年春学期

- d) 授業中の閲覧、スマートフォンの使用は厳禁です。

教科書

『初級日本語げんき 1 第3版』 The Japan Times



評価

- | | |
|-------------|-----|
| 学習本課題（教案作成） | 20% |
| 模擬授業* | 25% |
| 小テスト/課題 | 20% |
| 導入の発表 | 10% |
| 文法説明の発表 | 15% |
| 授業中の態度・発言 | 10% |

*模擬授業はひとり一回を想定していますが、履修者数によって、回数が変更になる場合があります。

添付資料2 導入発表のプリント (1, 2 ページ目/3 ページ)

文法導入の発表 (5月2日・9日・13日) 2024 春

文法項目と担当

5月2日 (木)	第5課 Adjectives (Present Tense) (例: 大きいです)
2名 OOさん OOさん	
※教案提出締切	5月1日 (水) 正午
5月9日 (木)	第5課 Adjectives (Past Tense) (例: 大きかったです)
2名 OOさん OOさん	
※教案提出締切	5月8日 (水) 正午
5月13日 (月)	第5課 Adjectives (Noun Modification) (例: 高いさいふ)
2名 OOさん OOさん	
※教案提出締切	5月12日 (日) 正午

一人約5分ぐらいの教案を作成します。個別的な導入法を用いて担当の文型を導入します。まず、学習者と自然な会話をしながら (SやSの既習の練習も入れて) 導入文を提示する状況に導きます。その際、文や会話文を提示して読ませることはしないでください。最後に教師が導入文 (ターゲットの文型を提示する文) を発話し、学習者にその発話された文の意味を理解させます。導入文はひとつに限定してください。例えば、第一課の「noun of noun」を導入するための導入文は「これはメアリーさんの本です。」という一文のことです。(他の文は導入後の文法説明が基礎練習で出すので、今回の発表には含みません) 最後に導入文を文字カードまたは PowerPoint で提示して、反復練習をしたら終了です。

既習の表現の復習を入れた会話 (2~3分)

導入と板書 (2~3分)



- 学生役は発表者以外の学生が担当します。
- 絵カードと文字カードを使っても、PowerPoint で提示してもいいです。
- 教師が一方的に話さずにはなく、学習者に参加させながら進めて行きます。
- 導入される表現の意味が伝わるように、状況は自然でわかりやすく設定してください。導入文も自然にならないように。
- その表現は学習者にとって未習であるので、導入表現は教師自身が発話して導入してください。
- 日本語で話す部分では未習の表現・言葉を使わないようにしてください。例えば第五課の文

文法導入の発表 (5月2日・9日・13日) 2024 春

法3を導入する場合は第五課の文法2までを既習と見なします。単語は可能な限りその前の課までに学習した単語を使ってください。「けんき」の最後の索引でチェックすること。なお、「訳」「(e)」とついている物は未習とします。

- 発表が終わった後にクラスでディスカッションをします。
- 導入をどのようにに展開するのか教師 (T) と学習者 (S) の発話をワープロソフトで作成してください。クラスで配布用印刷用紙までに提出すること。いかなる理由 (「バリエーションが壊れた」 「送信できなかった」) も認められませんが、余裕を持って作成してください。1頁に収まるようにしてください。(フォーマットは次頁を参照すること)

評価基準

- 適切 (5)
- 教案の書き方 (2)
- 既習項目の練習 (5)
- 展開とわかりやすさ (10)
- 未習項目 (単語・表現) の使用 (3)
- 長さ (3)
- 反復 (2)
- 合計点 (30)

最終チェック項目

- 教師が一人で話しすぎているか。学生が参加していますか。
- 導入文は自然な発話ですか。
- 第三者にわかりやすく状況設定ができていますか。
- 限られた日本語しかわからない学習者に、状況と表現の関連付けができるようになっていますか。
- 未習の表現、語彙が入っていないか。
- 短すぎませんか。

添付資料2 導入発表のプリント (3 ページ目/3 ページ)

文法導入の発表 (5月2日・9日・13日) 2024 春

学籍番号 140333

氏名 山田太郎

導入項目 第4課「Xがあります」

12ポイントのフォントで

用意するもの

- ・絵カード 時計
- ・時計 (教室にあるもの)
- ・文字カード「クラスに時計があります。」

使用する絵や文字カードをひとつひとつ書き出しておく。
(PowerPointを使う場合も)

T: (時計カードを指示して) あれは何ですか。

S1: あれは時計です。

T: S2さん、S3さんに聞いてください。

S2: S3さん、あれは何ですか。

S3: あれは時計です。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

導入文は最後に出すこと。

T: クラスに時計があります。

(文字カードを貼る)

T: みんなで言ってください。「クラスに時計があります」

S(全員): クラスに時計があります。

※一頁におさめてください。(行間やフォントを変えて1ページにおさまるようにしてください。)

添付資料 3 導入と文法説明の発表のプリント

導入と文法説明の発表について (5月23日・27日・30日) 2024 春	
文法項目 5月23日(木) 第6課 Describe two activities ○○さん, ○○さん 5月27日(月) 第6課 ~てもいいです ○○さん, ○○さん 5月30日(木) 第6課 ~てはいけません ○○さん, ○○さん	導入と文法説明の発表について (5月23日・27日・30日) 2024 春 あります。 評価基準 ● 締切 (5) ● 導入での既習項目の練習 (5) ● 導入の展開とわかりやすさ (5) ● 説明のわかりやすさ (5) ● 説明でのパワーポイント教材 (3) ● 例文の質 (3) ● 未習項目 (単語・表現) の使用 (3) ● 学生の参加 (3) ● 長さ (3) 合計点 (35)
一人約 10分ずつ。まず導入を行います (5分)。導入で発話した文を提示し、反復練習、意味の確認を行った後に説明します (5分)。学習者のレベルは初級、英語を共通語とします。従って、文法説明は簡明として英語で行います。まず導入した文 (一文) を提示して、その文の英語の意味を学習者に確認した後、その文法について必要な情報をスライドと口頭で提供してください。スライドに入れた説明は必要最低限にして、他は口頭で補ってください。スライドはシンプルで身やすく作成してください (ごちゃごちゃしないように)。英語の説明はテキストの説明通りではなく、かみ砕いて (より簡単な表現に言い換え) わかりやすく説明してください。アニメーションを使って、順番に提示するようにしてください。その後、例文を挙げます。例文はテキストのものを使わず、既習未習を意識して自分で考えてください。説明部分が短くなった場合は例文を多くして時間を調整してください。図書館のラーニング commons でパソコンを借りることができます。	文法導入 (5分) ↓ 説明と例文 (5分)
➢ 説明の部分も教師が一方的に話すだけではなく、質問して、学習者に参加させる形で進めてください。 ➢ 日本語で話す部分では未習の表現・語彙を使わないようにしてください。 ➢ 簡単な指示や「そうだね」「いいですね」「言ってください」などは日本語でいいです。 <u>必要に英語を使わない</u> ように (プリント Classroom expression 参照)。日本語と英語の切り替え！ ➢ 発表中は時間を意識して進行してください。また、必ずリハーサルをしておくこと。 ➢ 発表者以外のクラスメイトが学習者役になります (ネームカードを用意します)。学習者役の人は既習項目を意識して学生になりきってください。未習の表現を使って答えないように。 ➢ 発表の後にディスカッションの時間をとります。 ➢ 導入のスクリーンショット (ワードファイル) と授業で使用するパワーポイント教材は当日の午前9時までに Blackboard に提出してください。いかなる理由 (パソコンやプリンタが壊れたなど) も認められませんので、余裕を持って作成すること。提出後は必ず確認すること。 ➢ フォントは一般的なものを使ってください。(パソコンが変わると位置がずれたりすることが	

日本語教授法 B 模擬授業 24 年度春学期

期間：6 月 20 日(木曜日)～7 月 8 日(月曜日) ひとり一回

教案について

- 教案はコマ 50 分 (下の①から⑥まで) の授業を想定して作成します。

①ウォームアップと前回の復習 (10 分)
②導入 (復習も含む) (5 分)
③説明 (5 分)
④基礎練習 (10 分)
⑤コンテキスト練習 (10 分)
⑥応用練習 (10 分)

- この流れの中で②復習も含む導入 (5 分ぐらいい) ③文法説明 (5 分ぐらいい) ④基礎練習一種類 (10 分)、⑤応用練習一種類 (10 分) の教案を作成してください。
- 教案は所定の用紙を blackboard からダウンロードしてパソコンで作成してください。発表日の当日の午前 9 時までに BB で提出してください。教案は授業内容がイメージできるように教師と学生の発話を詳しく書くこと。パワーポイント教材 (導入・説明・練習をひとつにまとめたもの) も BB で提出すること。
- 教案はフォントによって替えてしまうことがあるので、提出するときには Word から PDF に変換してください。
- 締め切りは厳守し、必ず最終案を送ってください。締め切りに間に合わなかったり、明らかに手抜きのある教案と認められた場合は大幅な減点になります。

授業の内容について

- パワーポイントのスライドを見せながら、授業を進行します。持ち時間は一人約 30 分です。通常の授業の流れのうち、復習も含む導入 (5 分ぐらいい)、文法説明 (5 分ぐらいい)、基礎練習 1～2 種類 (10 分)、応用練習 1 種類 (10 分) を行ってください。
- 学習項目によっては文法説明が長くなるものもありますが、なるべく時間内で端的に行ってください。教材はパワーポイントで作成し、提示してください。
- 学習者のレベルは初級、英語を共通語とします。従って、文法説明は原則として英語で行いますが不必要に使わないこと。テキストの説明をそのまま言うのではなく、話し言葉でわかりやすくスライドの内容とシンクロさせて説明してください (アニメーションを使用)。
- 基礎練習はその文法を含む文を作る練習を採用してください (会話形式でも OK)。英文をそのまま訳させる練習はしないように。(英語でキューを与えるのは OK) 練習では学生に話させることに主眼を置いてください。ペーパーワークではなく、教師主導型の練習をしてください。

日本語教授法 B 模擬授業 24 年度春学期

- 応用練習は教科書の練習を参考にしてもいいですが、そのまま使用しないようにしてください。文を作る練習ではなく、会話形式のペーパーワークを作成しましょう。プリントを使用する場合は教案の最後につけてください。授業で学生に配布するプリントは各自 6 名分 (自分を含めたら 7 名分) 用意しておくこと。必ず指示文と例をパワーポイントで提示し、全体で確認してから、ペーパーワークをさせましょう。

その他

- 発表後、グループ・クラスでディスカッションをします。発表者自身からのコメント、クラスメイトからのコメントを聞きます。
- 発表者以外の参加者 (5 名) が学生役になります。学生役をする時は、日本語の初級学習者になりきるようにしてください。(例えば、答える時はいつもスムーズには答えない、文法の関連いをする、質問する、未習項目を使わないなど) 必ずその日の文法項目を予習し、学生がおかしそうな誤り(たとえば活用や助詞、語順の誤りなど)を考えておいてください。ひとり一回間違えるようにしてください。(誤用訂正の練習にもなります)
- 発表者はグループディスカッションの間に自身の授業の振り返りをまとめてもらいます。(提出)

評価：

- 成績全体の 30%
- 評価項目：
 - 教案 (プリント) とパワーポイント教材の提出期限 (3)
 - 教案の書き方 (3)
 - 導入の質 (5)
 - 説明の質 (5)
 - 基礎練習の質 (5)
 - 応用練習の質 (5)
 - パワーポイント教材の使用と質 (3)
 - 英語と日本語の切り替え (3)
 - 未習の単語・表現の使用 (3)
 - 時間配分 (3)
 - 振り返り (2)
 - 40 点満点

日本語教授法 B 模擬授業 24 年度春学期

最終チェック項目

- () 教師が一人で話しすぎていませんか。学生が参加していますか。
- () 不必要な英語の使用はありませんか。または、難しい日本語で指示や説明をしていませんか。
- () 導入は自然な流れで行われますか。(学生が戸惑うような唐突な展開になっていませんか)
- () 第三者にわかりやすく状況設定ができていますか。
- () 限られた日本語しかわからない学習者に、状況と表現の関連付けができるようになっていきますか。
- () 未習の表現、語彙が入っていませんか。
- () DEADTIME がありませんか。
- () 短すぎ・長すぎませんか。

スケジュールと担当

6月20日(木) 模擬授業①

第7課 ～ている (Action in Progress)

発表者：

6月24日(月) 模擬授業②

第7課 メアリーさんは髪が長いです

発表者：

6月27日(木) 模擬授業③

第7課 Adjective/Noun *Te*-forms for Joining Sentences

発表者：

7月1日(月)

模擬授業④ 第7課 Verb Stem+に行く

発表者：

7月4日(木)

模擬授業⑤ 第7課 ～と思います

発表者：

7月8日(月)

模擬授業⑥ 第7課 ～と言っていました

発表者：